

夏休みを前にして成績はどうだったろうか？ しっかり復習し、勉強を進めていこう！

I. 全体講評

「第3回6月センター試験本番レベル模試」の国語の平均点は一一・七点（二〇〇点満点）であった。前回より一〇点ほどのアップとなった。これは、前回得点が伸び悩んだ評論と漢文の得点が大きく伸びたことが要因であろう。評論の論理的な読み方、また、漢文の基礎知識の習得をしっ

かりと行なった諸君は、今回の結果には大いに自信をもってよい。夏に向けて、この調子で勉強を続けていこう。

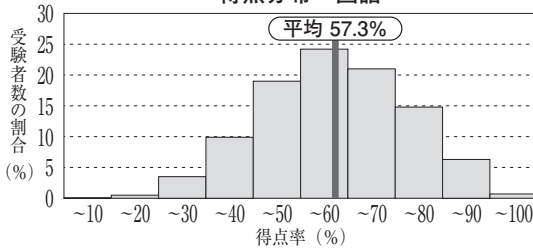
もし、成績の上がる要因がわからないのに、得点出来た諸君は、要注意だ。多くの受験生は質的にも量的にも、勉強を本格的に開始する時期なので、差をつけられてしまうかもしれない。そうならないよう、自信をもって正解できたところ以外は、しっかり復習をし、国語の受験勉強をここから本格的に始めよう。

残念ながら今回成績が下がってしまった諸君、特に、現代文の問題文によって大きく点数が上下する諸君は要注意だ。大事なセンター試験本番を、自分の感覚に合う問題が出るかどうか「運」に任せるわけにはいかない。入試問題である限り、感覚ではなく、根拠に基づいて解答は導き出せるようになっていよう。しっかり勉強ができていなかった諸君はぜひ、今回の模試をきっかけに、現代文の解き方を確認してもらいたい。

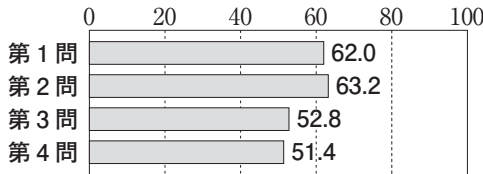
古典分野については、知識事項を確実に身に付けることが大きな得点力を生むことになる。受験学年であれば、ぜひこの夏までに知識事項を完璧に押さえてしまおう。

いよいよ「受験の天王山」と言われる夏が目前に迫ってきた。国語についても、この夏、どれだ

得点分布 国語



大問別得点率 (%)



II 大問別分析

第1問 (評論)

選択肢が抽象的な表現であっても、粘り強く意味をくみとって考えよう。

今回は、問4の正答率が二〇・五%ときわめて低い数字で驚かされたが、第1問全体の得点率は六二・〇%ですまずまずの結果となった。

涙に関する哲学的考察など、あまり聞かないテーマだが、身近な話題ではあるから、とっつきにくい印象は受けなかったはずだ。本年度のセンター試験に比べると、やや易しめのレベル設定で、七、八割の得点を目指したいところだ。

問1の漢字では、(ア)の「耳目」が五二・四%、

(エ)の「感傷」が六三・〇％で、他の漢字の正答率に比べると低くなっている。熟語の意味を考え、しっかり書けるようにしておこう。

読解問題では、問3の正答率が五四・五％という結果で、やや難問だったようだ。「相反するよきな要素が、網の目のように絡まり合って」という表現の内容を丁寧に考えなければならぬ。

問4は正答よりも誤答②を選んだ者が圧倒的に多かった。②はまったくの誤りではないが、「怒りや復讐の念を社会に訴えていく情念」がやや強引すぎる解釈になっている。「実践的含意」Ⅱ「自然やいのちのあり方への諦観や無常観、社会的制度への暗黙的な服従といった、かすかながらも倫理的な意味合い」という本文の内容を、正答③では「その人間の歩んできたこれまでの人生やその人間が置かれてきた社会的状況にどういう立場で接するのか」と言い換えている。その言い換えが抽象的でわかりにくかったのだろう。該当箇所を押さえて、選択肢の表現と対応させながら考えることが必要だ。

問6は(i)(ii)ともに五〇％を超える正答率だが、(i)では②とした者、(ii)では③とした者が多かった。本年度のセンター試験に準じた形式である。よく見直して解法を十分マスターしておこう。

## 第2問 (小説)

特に問6の表現の問題について、**正誤判断のプロセスを細かく見直そう!**

今回の問1は(ア)と(イ)が正答率六割前後で、難しいと感じた受験者が多かったようだ。言葉の辞書

的な意味を知らなければ問1の正答は難しい。日頃から言葉の意味や成り立ちについて興味を持つことが大切だ。とはいえ、それでも知らない言葉が出題されたらどうするか。解説にも記したように、「その言葉の漢字の意味に注目して推測する」のは一つの有効な手立てである。

問2は誤答⑥を選んだ受験者は要反省である。小説は、時系列を基準に、登場人物の心情を正確に分析することを忘れてはいけない。

問3は誤答⑤を選んだ受験者が二割近くいた。選択肢の言葉の一つ一つ吟味することが必要で、⑤は「すれ違い」という言葉の使い方が、本文の内容にそぐわないことに気づく必要がある。

問5は、三造の主観的な印象や妄想を正しく読み取らねばならない問題で、苦労した人が多かったようだ。正答率も五八・三％と振るわなかった。傍線部以降の内容を丁寧に読めば、間違い選択肢の誤りはわかりにくいものではないはずだ。

今回もつとも復習しなければならないのは問6である。正答率が③は四六・七％、⑥は三七・四％で、誤答の選択率も一七・三四％とばらついた。センター試験に独特の、表現についてのこの設問は、問5までとはアプローチの仕方が異なるので、苦手な人はしっかりと見直してほしい。

重要なのは、**選択肢の正誤判断のプロセスを反省することだ**。たとえば、①では「利那的」の辞書的な意味を考えたか? ②では「三造と伯父との関係性」が変化しているかを本文に戻って検討したか? ③では「三造の視点を通した」という説明が実際に存在するのか、また、それによって

伯父の行動が「理解しやすくなっている」と言えるかどうかを考えたか? ⑥の「立体的」という表現の妥当性を考えたか? このように解答に至る細かいプロセスを見直し、センター小説を失点しにくい分野にしよう。

## 第3問 (古文)

**選択肢の表現の違いに注意して、内容を吟味しよう!**

「十訓抄」にある、天狗が恩に報いて法師に仏の説法を見せたが、まやかしとして天罰を受ける話である。全体の得点率は五二・八％だった。

問1の解釈問題は、(ア)は四割、(イ)と(ウ)は六割を超えてよくできていた。(ア)は類出語「あからさまに」を、現代語の意味(おおっぴら)でとった①への誤答が二割以上もあった。(イ)の重要語「よるこび」と謙譲語「聞こえ」、(ウ)の慣用句「やうこそあるらめ」はよくできていた。

問2は「ぬ・に・ね」の識別問題で、正答率は約六割であった。誤答で多かったe「失せにけり」は典型的な完了の形である。

問3は、鳶の化身の法師が、助けしてくれた僧に対して「御志」と言っているのだから、「慈悲心」が正解で、八割近くの受験者ができていた。誤答がやや多かったのは「命の大切さ」を知ったという④だが、これは報恩につながる。

問4は、老法師に神通力があり、報恩のために願いをかなえようという点では②も間違いではないが、②は「まなびて」を「学ぶ」としている点が誤りである。「まなぶ」は「まねぶ」と同じで

「まねをする」意。これは八割近くの受験者ができていた。語彙力を選択肢吟味に応用したい。

問5は、老法師が、仏の説法を再現する際に信心を起こしてはいけないと戒めたのに、僧が信心を深めたために老法師が天罰を受けたのだが、その天罰の内容把握に難しさがあつたようだ。正答率は三割を切り、誤答④を選んだ受験者が四割近くもあつた。本文の該当箇所を押さえて、選択肢を最後まで丁寧に吟味することが必要だ。

問6は内容合致問題だが、内容が読み取れなかったようで、正答率は二割にとどまった。特に③・⑥への誤答が正答率を越えてしまった。どちらも明らかな誤りを含んでおり、選んではいけない選択肢である。どこで間違えたのかを、解説冊子を読み直して、しっかりと把握しておきたい。

#### 第4問 (漢文)

**登場人物の心の動きに注意し、行動の理由を把握しよう！**

『閻草堂筆記』の、処方箋を隠した亡霊の話である。全体の得点率は五一・四％で前回より上がったが、読解問題はどれも四割前後で苦戦している。

問1の語の読みの問題は、(ア)「頗(すこぶる)」は五割弱、(イ)「陰(ひそかに)」は九割弱の正答率であつた。(イ)は文脈からの判断ができるが、(ア)の知識問題は既習かどうかで差が出た。

問2の語句の意味の問題は、どちらも五割前後の正答率。(ア)は再読文字「未」が「まだくはない」の意で、誤答①「完全に治りきっていないのに」

と正答③「すぐには治らなかつたので」に解答が分かれた。順接もポイントである。(イ)は「恍惚」を知っていれば迷わないが、正答率は四割で、「光り輝く」とした④への誤答が多かつた。

問3は、生前、公に恩を受けた亡霊(小人)が、処方箋を隠した理由を問う設問である。

これは、小人が医師の心理を理解していることを読みとらなければならぬ。正答率は四割を超えたが、薬を変えようとした誤答④への解答も二割を超えて多かつた。本文全体の読解にかかわる、正答したい問題であつた。

問4は、返り点と解釈の問題である。

(i)は、限定の「耳(のみ)」が「特だ(ただ)」と呼応していることがわかっているが、副詞「尚(なほ)」の読み方が難しかつたようだ。一錠しか飲んでいないので「まだ」効かない、という文脈である。(ii)の解釈はよくできていた。

問5は、空欄補充の問題。IIの処方箋を隠したのが亡霊であることは七割近くの受験者がわかっているが、「前医」と「後医」の関係に苦戦したようで、正答率は四割程度に留まつた。後の医者はあるて前の医者とは異なる処方をする、という医師の心理を読み取ることがポイントだ。

問6は、本文の趣旨の問題で、正答率は四割強であつた。「世情を諳識する」とは、医師の性情を理解していることを指すが、恩を返しに来てくれたということに留まる④への誤答が二割を超えた。話の中心となることは何か考え、必ずその要素が入つた選択肢を選ぶようにしよう。

### Ⅲ. 学習アドバイス

#### ◆語彙力・知識事項を集中的に強化しよう

現代文は読解の前提となる語彙・知識をおろそかにしてはならない。漢字・語句の学習は終わっているだろうか。苦手意識のある人は繰り返し学習し、確実なものにしておきたい。その際には、評論でよく用いられる言葉や、小説で用いられる心情語などを集めた問題集を選ぶとよいだろう。また、センター試験の古典は読解問題中心ではあるが、基本的な知識がなければ内容をきちんと読み取ることが不可能である。受験学年なら、今の時期に、古文文法は全範囲、漢文の句法も一通り終わっていることが望ましい。まだの人は手持ちの参考書を使い繰り返し学習し、なるべく早く、定着させよう。

#### ◆過去問研究を始めよう！ 過去問を解いて傾向を知ろう！

過去問演習はまだ早い、と思っている人もいるかもしれないが、センター試験の国語はボリュームも多くレベルも高い。時間との戦いも制する必要がある。ぜひ早めにスタートさせてほしい。過去問を解いてみることで、さまざまなことに気づかされ、そこから次のステップに進むことができるようになる。この夏、ある程度の分量をこなそう。その際には、「解く順序」や「時間配分」も意識するとよい。具体的な目標を立て、実践したうえで、次回の「第4回8月センター試験本番レベル模試」に臨んでほしい。